

千葉県温室効果ガス排出量の状況

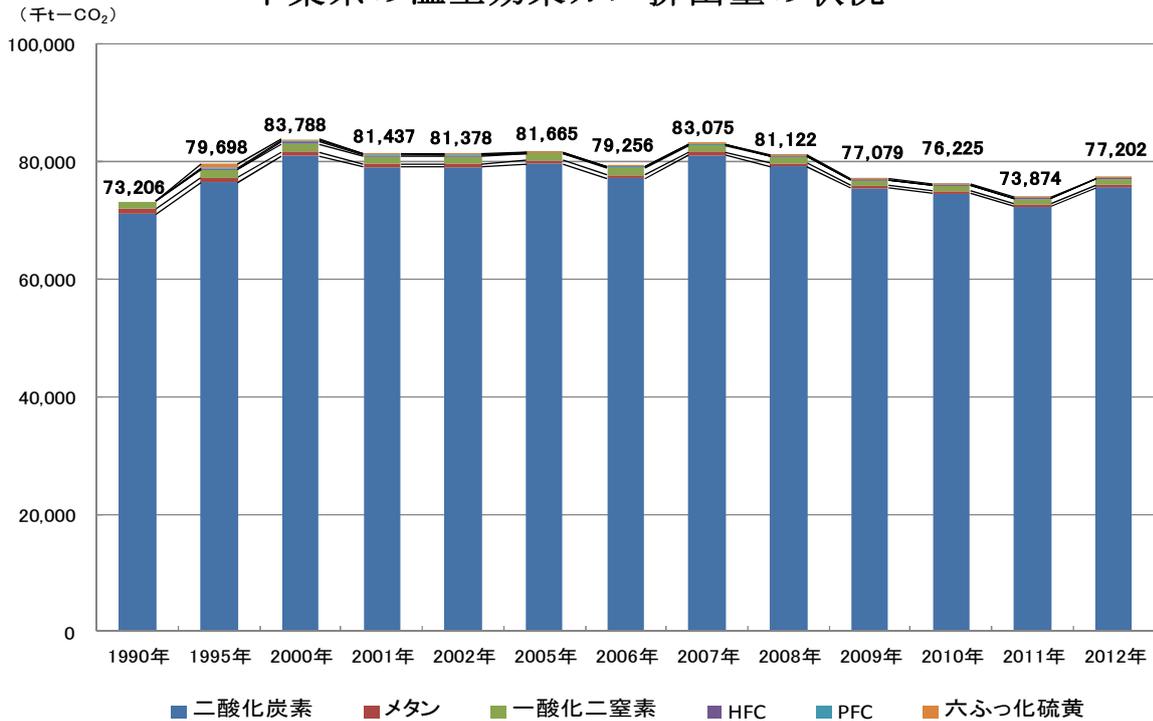


図 1 千葉県の温室効果ガス排出量推移

- 温室効果ガス排出量の大部分（98%）は二酸化炭素
- 1990年以降増加し、2000年前半は横ばい
- 2007年以降は減少傾向であったが2012年は増加に転じた

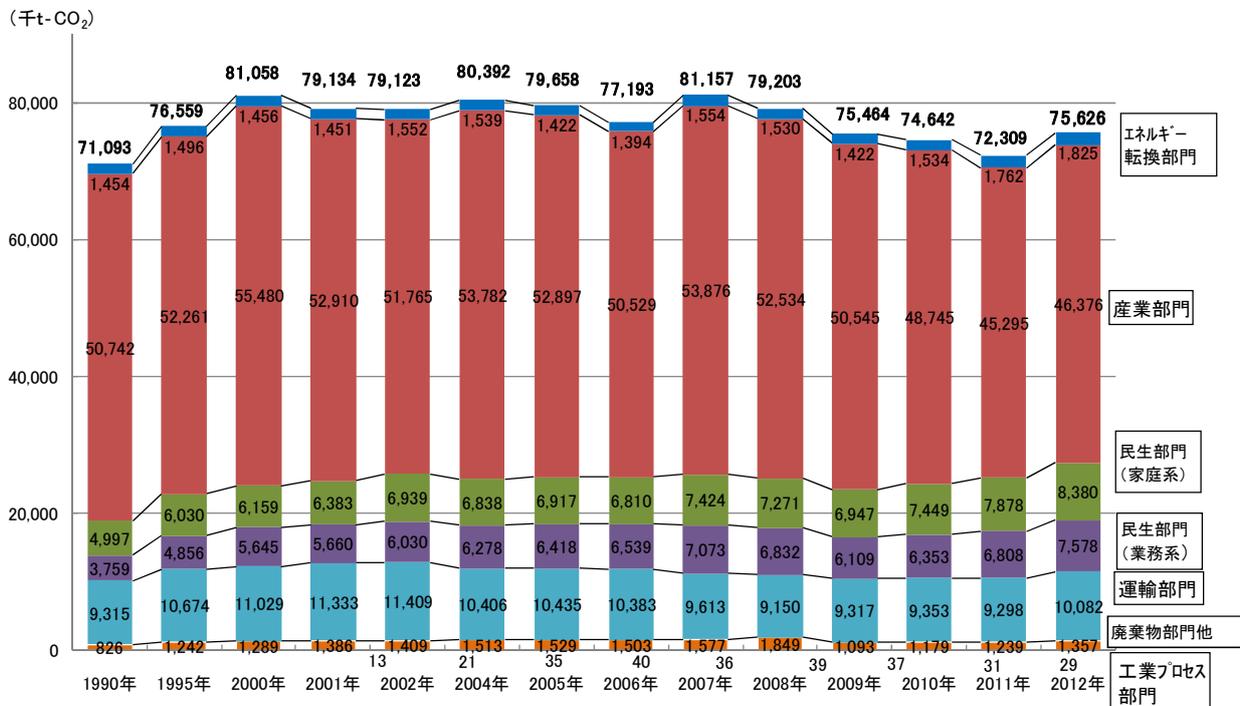


図 2 千葉県の部門別二酸化炭素排出量推移

- 産業部門の割合が大きいが1990年に比べ8.6%減少(2012年)
- 1990年と比較すると、民生部門(家庭系・業務系)の大幅増加により産業部門の減少分が相殺され、排出量全体は増加

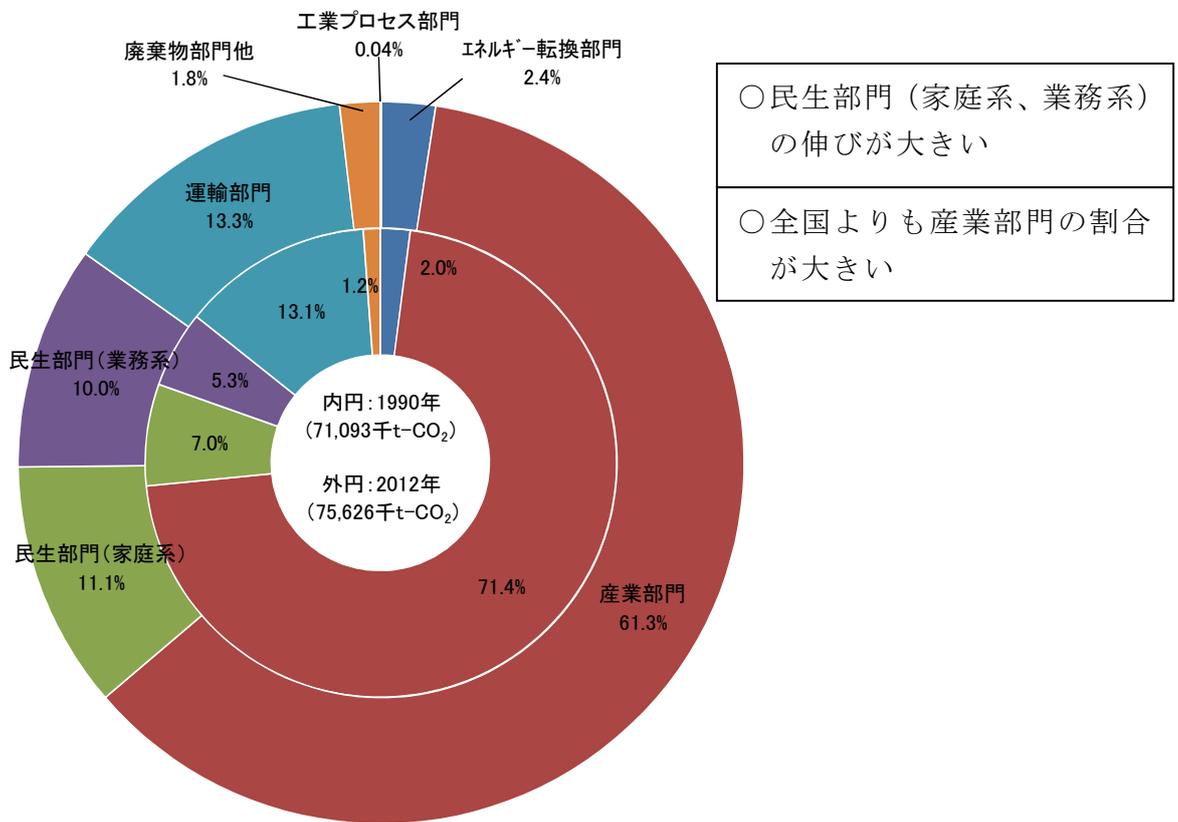


図3 千葉県における二酸化炭素排出量の部門別構成比（1990年比）

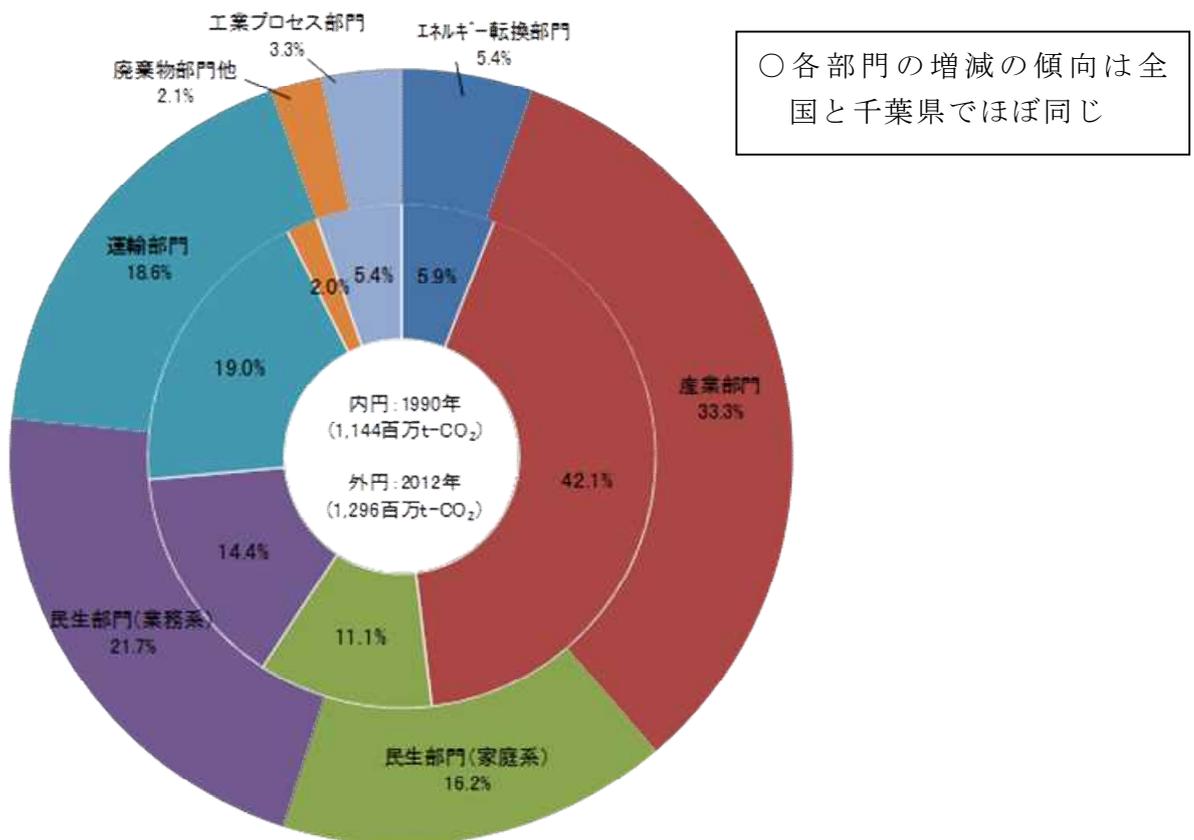


図4 全国における二酸化炭素排出量の部門別構成比（1990年比）

千葉県における主要部門の排出状況

産業部門

○生産指数あたりのCO₂排出量は、ほぼ横ばい
 ○近年は生産指数も減少し、排出量が減少

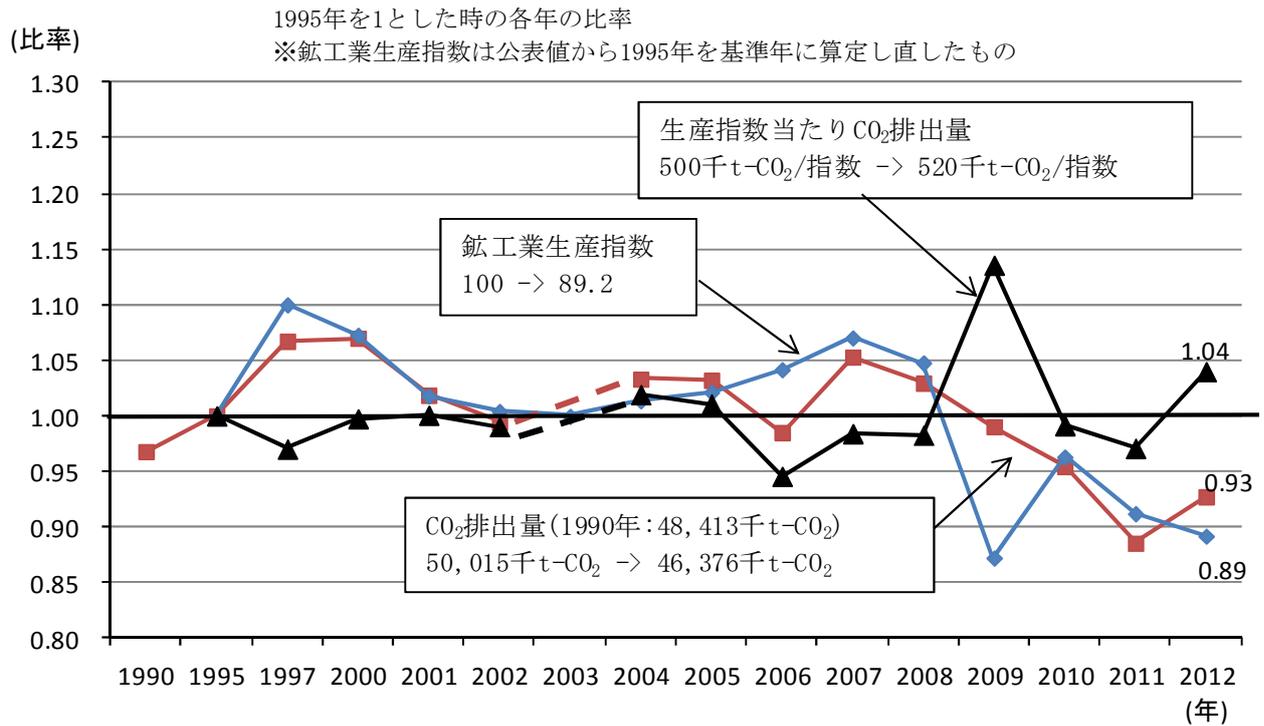


図5 鉱工業生産指数、CO₂排出量、指数あたりCO₂排出量の推移

○主要な業種ごとの自主取組の実績 ⇒ 資料1-2別紙参照

民生部門家庭系

- 1世帯当たりエネルギー消費量は近年減少傾向
- 2011年以降は電力の排出係数が増加したため1世帯当たりCO₂排出量が増加
- 上記に加え世帯数も増加しており家庭部門のCO₂排出量は増加
- 2011年、2012年のCO₂排出量の増加は主に電力のCO₂排出係数が上昇した影響

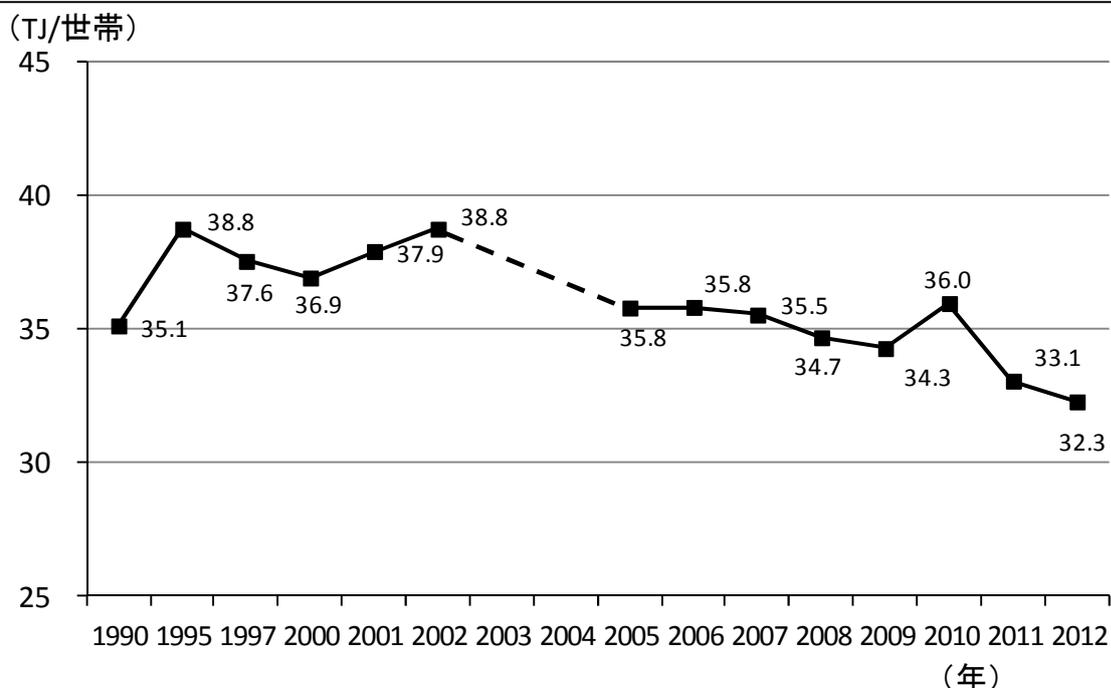


図6 1世帯当たりのエネルギー消費量の推移

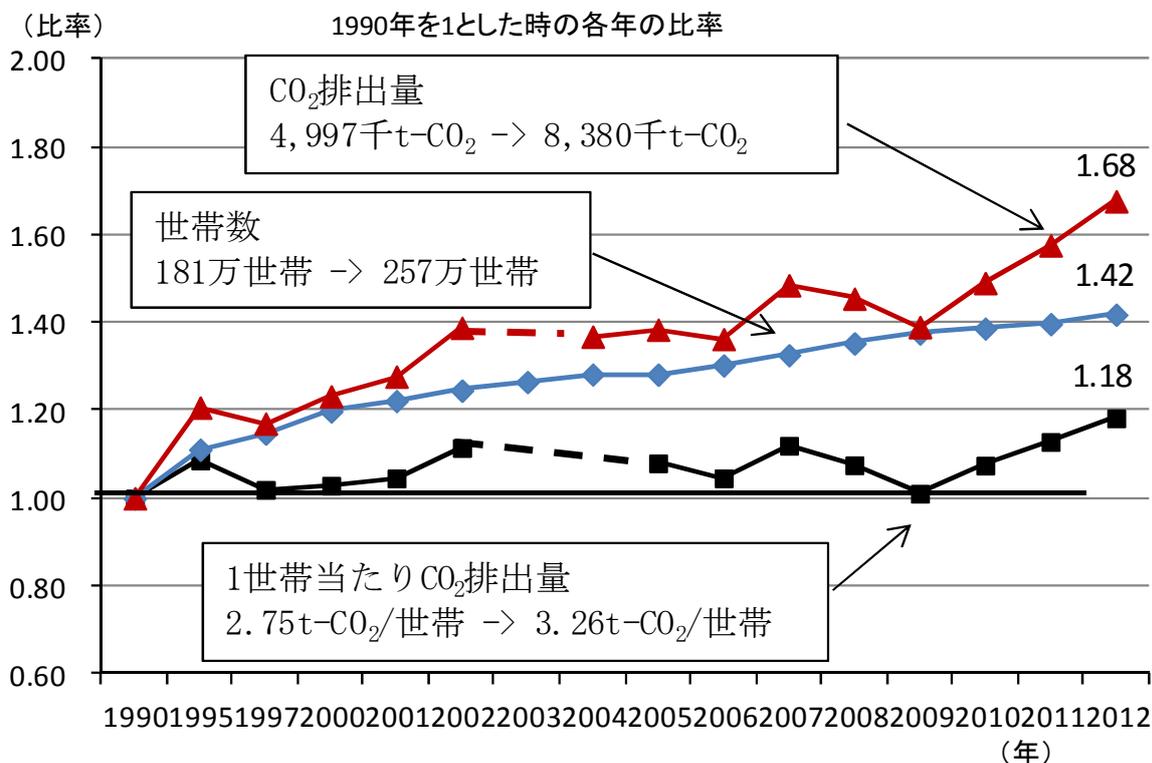


図7 CO₂排出量、世帯数、1世帯当たりCO₂排出量の推移

電力の排出係数

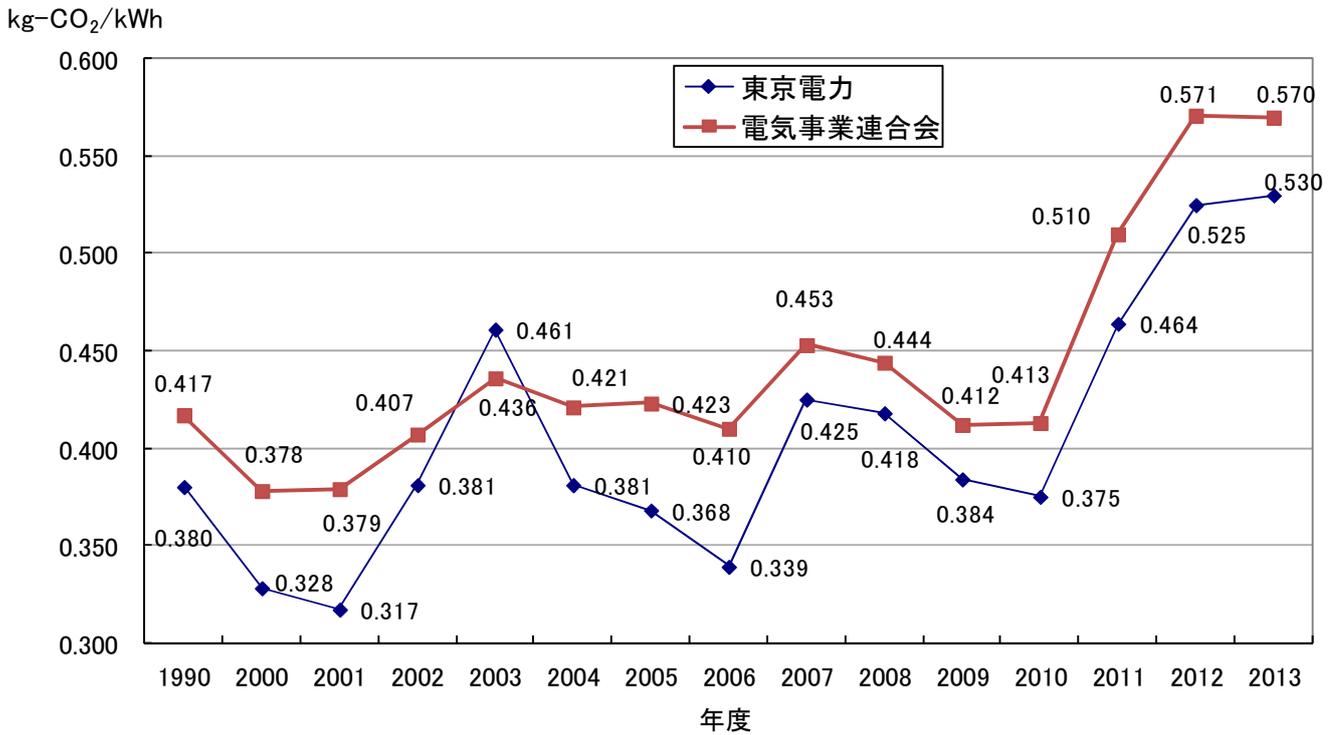


図8 電力のCO₂排出係数の推移（東電管内、全国）

○電力消費 1kWh 当たりの二酸化炭素排出量（排出係数）は、2011年3月の東日本大震災以降、火力発電の割合が増加したことにより大幅に増加

民生部門業務系

- 2006 年をピークに延べ床面積当たりのエネルギー消費量は減少傾向
- 延べ床面積あたり CO₂ 排出量も 1 割近く減少
- 延べ床面積が 1990 年から約 2 倍に増加したため、CO₂ 排出量も 2 倍に増加
- 2011 年、2012 年の CO₂ 排出量の増加は、電力の CO₂ 排出係数が増加した影響

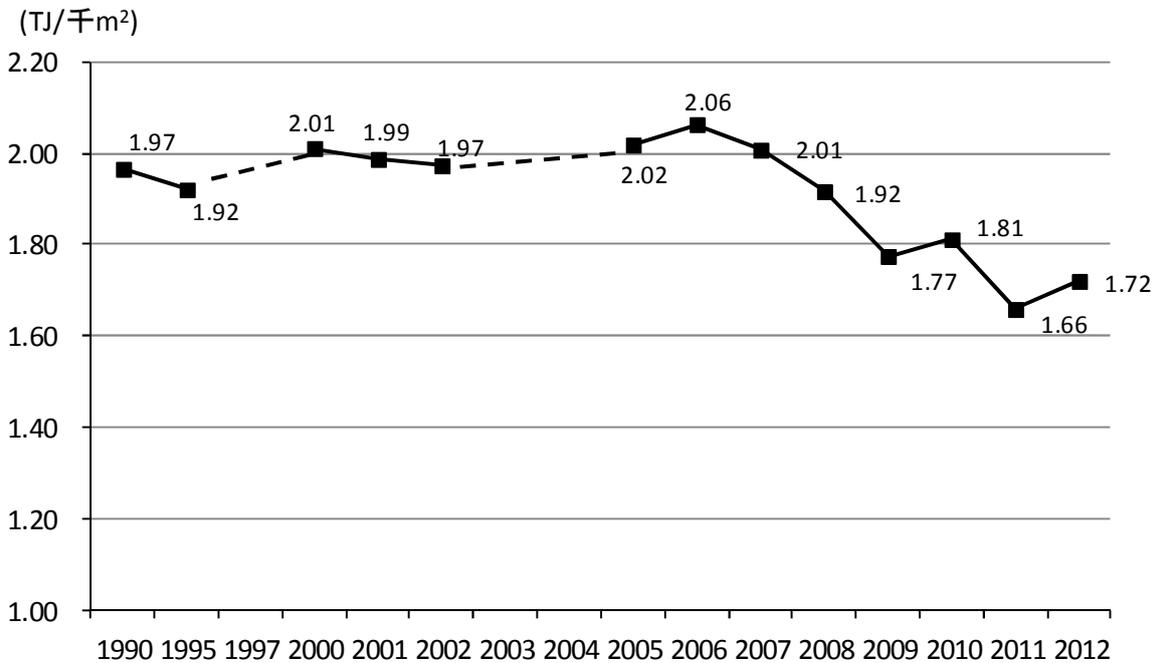


図 9 延べ床面積当たりのエネルギー消費量の推移 (年)

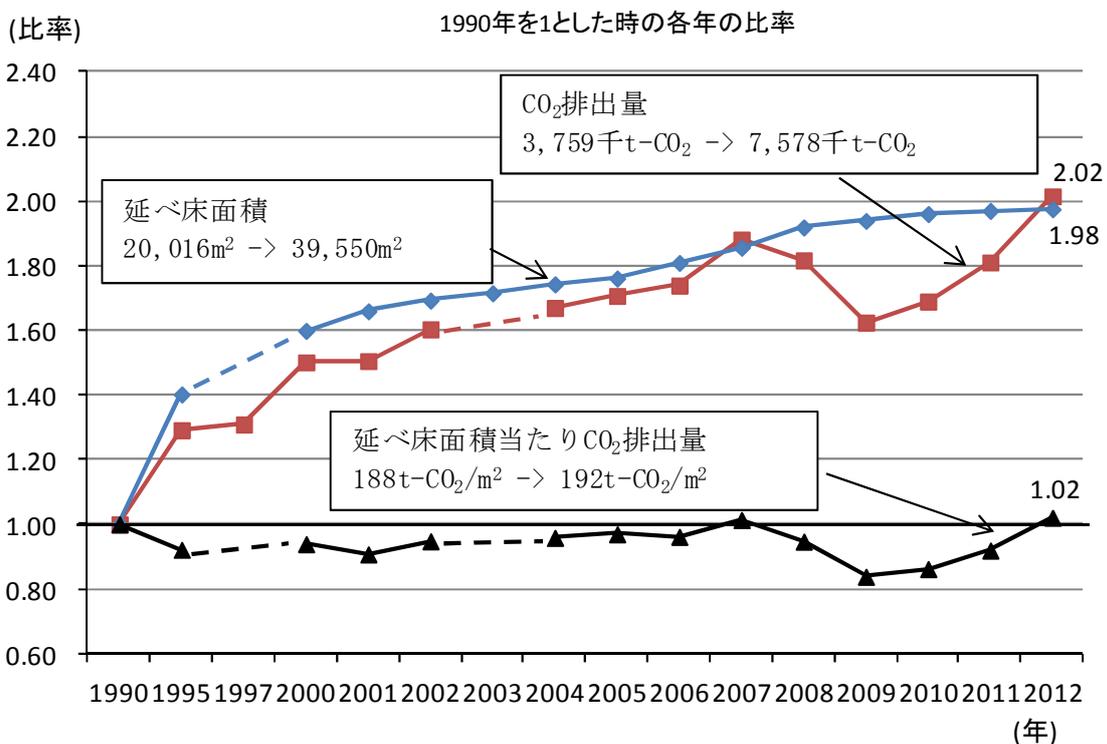


図 10 CO₂ 排出量、延べ床面積、延べ床面積あたり CO₂ 排出量の推移

CO₂排出量に関する各部門の概要

エネルギー転換部門

発電事業者やガス製造業者など、エネルギーを供給する業種について、発電事業者の送電ロス分や自家消費分、ガス製造業者の自家消費分などのCO₂排出を計上。

なお、需要家が消費した分（供給分）は需要家側でカウントされるため計上しない。

産業部門

農林水産業、建設業、鉱工業、製造業からのCO₂排出を計上。

民生部門（家庭系）

家庭におけるCO₂排出を計上。なお、自動車分は運輸部門で計上している。

民生部門（業務系）

事務所や店舗などのいわゆるサービス業（第3次産業）におけるCO₂排出を計上。

運輸部門

貨物及び旅客自動車、鉄道等からのCO₂排出量を計上。

廃棄物部門他

プラスチック類等化石燃料由来の廃棄物の焼却や上下水道処理施設からのCO₂排出を計上。

工業プロセス部門

工場等の製造工程などから排出される、化石燃料由来ではないCO₂排出を計上。

例：セメント製造工程やアジピン酸製造工程において化学反応で生成するCO₂